



2019年11月5日

各位

会社名 日本ライフライン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木啓介
 (コード番号 7575)
 問合せ先 常務取締役管理本部長 高橋省悟
 (TEL. 03-6711-5200)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年4月26日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2020年3月期通期 連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 54,059	百万円 10,465	百万円 11,167	百万円 7,747	円 銭 96.35
今回修正予想(B)	52,450	10,562	10,784	7,675	95.66
増減額(B-A)	△1,609	96	△382	△72	
増減率(%)	△3.0	0.9	△3.4	△0.9	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	45,525	10,526	10,808	7,723	96.05

(ご参考)2020年3月期通期 個別業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 54,019	百万円 11,253	百万円 7,833	円 銭 97.42
今回修正予想(B)	52,385	10,841	7,731	96.36
増減額(B-A)	△1,633	△412	△102	
増減率(%)	△3.0	△3.7	△1.3	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	45,482	10,876	7,803	97.04

修正の理由

(連結業績予想)

連結業績予想につきましては、後述の個別業績予想の修正を踏まえ、当初の計画に対して売上高及び各段階利益における業績予想を修正するものであります。

(個別業績予想)

当第2四半期累計期間におきましては、リズムデバイスが、BSC社^{*1}製のS-ICDの寄与により堅調な販売実績となった一方、EP/アブレーション及びインターベンションにつきましては、競合製品の影響等により、計画を下回る販売実績となりました。また、販売費及び一般管理費におきましては、増加を見込んでおりました人件費や広告宣伝費、研究開発費等の費用について、当初の想定を下回る実績となりました。

第3四半期会計期間以降につきましては、2019年9月にリズムデバイスにおけるCRM関連製品がBSC社製品に全面的に切り替わったことから、当初計画を上回る販売が見込まれます。しかしながら、EP/アブレーションにおきましては、一般的なEPカテーテル及び食道温モニタリングカテーテルにおいて、競合他社の参入により競争環境が厳しさを増していることや、内視鏡レーザーアブレーションカテーテルの新規施設の開拓に想定よりも時間を要していることから、販売は計画を下回ることが予想されます。また、インターベンションにおきましては薬剤溶出型冠動脈ステントについて、一定の市場シェアを獲得しているものの、当初の販売計画を下回る見通しとなりました。以上により、リズムデバイスでは好調な販売が見込まれるものの、EP/アブレーション、インターベンションの減少を吸収するまでには至らず、全体としては若干の減少を見込んでおります。

また、販売費及び一般管理費におきましては、当初計画に含まれるBSJ社^{*2}に対する営業支援金につきましては、予定通り支出を見込んでいるほか、第2四半期累計期間において未執行であった広告宣伝費や研究開発費等についても、第3四半期会計期間以降の支出を見込んでおります。しかしながら、第2四半期累計期間までに未執行であった人件費等の一部の費目については、当初の通期計画を下回る見通しであり、また薬事関連費用の一部等については、来期以降の支出となる見通しとなったことなどから、販売費及び一般管理費としては計画を下回る見通しとなりました。

以上により、2019年4月26日に公表した通期の業績予想を修正いたしました。

(注)上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により業績予想と異なる可能性があります。

^{*1} ボストン・サイエンティフィック社

^{*2} ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

以上